

# (59) 栃木県日光市の木戸ヶ沢(きどがざわ) 鉾山跡一追記

2020年5月

10年を経ての現地の現状確認と、GPSであるガーミンによる現地への確りとした経路ログの獲得を目的として、現地を再訪した。現地の様相は10年前とほぼ変わることはなかった。

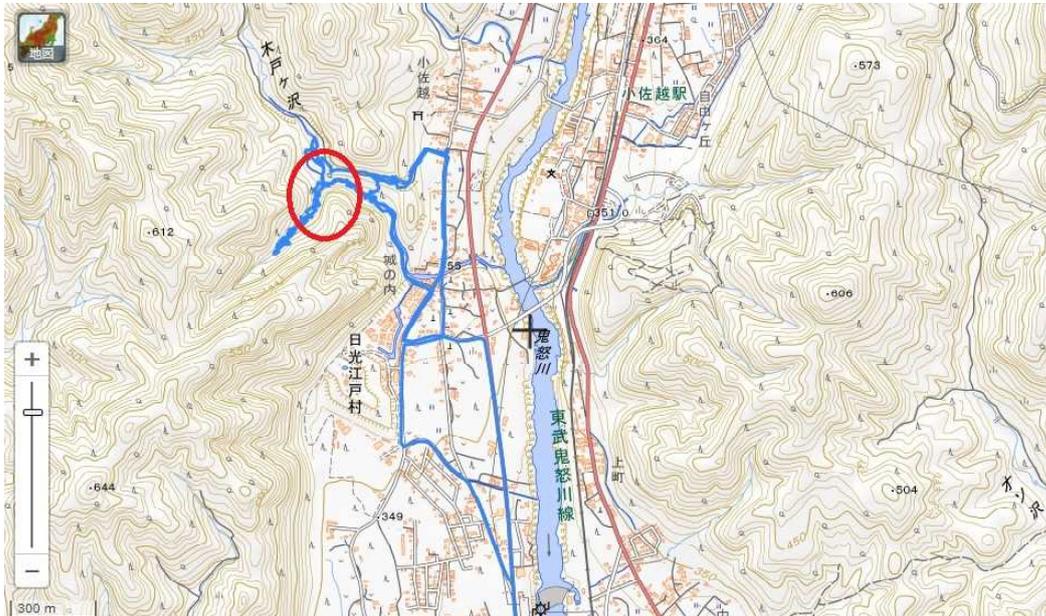


図1 車で今市から鬼怒バイパス線を北上し現地付近へ。そして現地一帯を歩き回り、その後、車で帰宅。水色の曲線がガーミンによる経路曲線。赤丸付近が鉾山跡の現地。或いは、車ではなく東武鬼怒川線の小佐越駅から徒歩で向かうのも良さそう。駅から現地まで約1km。徒歩で30分はかからない。直ぐ近くに「日光江戸村」がある。ここを訪問するのも良いであろう。



図2 図1の部分拡大図。車でA→B→C→Dと進んだ。CからDは村道から林道となっている。切り開きの直ぐ先のD点に駐車した。そこから散策した。E点にも適当な広さの空き地がある。沢の分岐点であるF点当たりの小さい砂防ダムの直ぐ上、2カ所に閉塞された坑口跡があった。黄緑丸が坑口跡。既報の通りである。G点付近には石垣組を土台とした大きなコンクリート基台があった。鉄索などの巻上機があったのかも知れない。その少し上流に、今回新しく坑口跡を確認した。

## 鉱山跡写真



写真1 図2のC点付近である。前方の電柱と民家の間の所で狭い道に左折して行くと直ぐに林道に入る。



写真2 D点である。切り通しを抜けた直ぐ先の左側に、車数台が駐車できる空き地がある。左下が沢。適当なところから斜面を降りられる。河岸段丘状の平地値のある広くなだらかな沢である。



写真3 G点付近である。石垣作りの平地の上に、大きなコンクリート製の基台があった。何のために？ 鉄索のウインチ台だったのかも。



写真4 写真3の所から少し上流、沢の左岸に坑口跡を確認。赤丸の所。



写真5 近接しての一葉。中央部の黒いところ。草木が茂っていると隠れてしまうかも。



写真6 入口から内部を覗く。入口部はほぼ埋まっているが、確りした坑道である。



写真7 H点付近。沢の右岸、河床水準にの所。坑道からしみ出した鉱水によって一面が茶色に鉱染されている。前方に坑口があったのであろう。が、現在では斜面の崩落などによって消えてしまったのか。ここより少し上流にはコンクリート壁がある。季報を参照。



写真8 J点付近。日光江戸村の敷地の北端に沿っている林道。ここから現地まで徒歩での通行可能。しかし、この林道の入口付近には民家が密集しており、車の駐車はほぼ不可。この林道の先では、沢への崩れがあり、車での進入は危険かも。

## (59) 木戸ヶ沢(きどがざわ) 鉱山跡

栃木県今市市藤原町小佐越地区にある。観光地である日光江戸村が極近傍にある。参考文献(1)によれば、「・・・鉱脈は黄銅鉱、黄鉄鉱、閃亜鉛鉱、方鉛鉱、自然金を含む石英脈である。・・・」

今市から121号線を鬼怒川温泉目指して北上する。栗原のところで121号線は2つに分岐する。直進方向を進む。鬼怒川を右側に見ることになる。栗原から約2.5kmのところで、十字路に達する。この十字路を城の内方向に向かって左折する(右折すると、鬼怒川を渡り、小佐越駅の方に行ける)。200mほど進んで右折する。ここから北に600m~700mのところで左折し、林道に入っていく。この林道の進入路は狭いので、分かりにくいかも知れない。これらの経路は地形図に描かれている通りである。切り通しの林道を抜けると左側に沢、右側が山の斜面となる。この当たりの適当なところで駐車できよう。林道から沢に向かって杉林を下る。直ぐに平坦な箇所に行き着く、地形図中の赤楕円の所である。沢沿いに沿ったこの平坦地は、後掲の旧地形図と対照してみると直ぐわかるが、鉱山施設跡と思われる。それらしい石垣組もあちらこちらに残っている。赤楕円より少し下流の所には、沢の兩岸に橋桁らしい石垣が残っている。位置は旧地形図の林道の位置と一致している。

この箇所には、別の経路でもたどり着ける。地形図中の「城の内」の所に標高355の数値が見える。この所から沢の上流に向かって左側に、沢に沿ってしっかりした林道が赤丸当たりまで伸びている。掲載している現地形図中には、この林道は記載されていない。後掲している旧地形図にはこの林道が記載されている。村道から、この林道への入り口は分かりにくいかも知れない。そのあたりを歩いて探せばわかるであろう。しかし、車で来てこの林道を歩こうとすれば、車をどこかに駐車しなければならない。入り口付近には、民家が建ち並んでいる。どこか迷惑にならない駐車場所を見つける必要がある。



赤丸が鉱山施設跡。緑色が見つけた坑口跡

地図 国土地理院2万5千分の1地形図「鬼怒川温泉」

探査日 2010年4月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。



昭和27年5月発行5万分の一「日光」より

国土地理院の筑波センターでは明治以降から現在までの地形図を無料で閲覧できる。有料で印刷もしてもらえます。

木戸ヶ沢鉦山の位置「鉦山記号 どう」が明記されている。鉦山記号の対岸の平坦な川岸には幾つもの鉦山の建物があったようである。ここに至る道も記されている。川に架かっていた橋の両岸の岩垣は現在（2010年）でも健在である。

## 鉦山跡写真



沢に降りてから上流を見る。水道管が沢を跨いでいる。木々の葉が繁く無ければ、先ほど降りてきた林道からも見ることができよう。後付になっているが、この水道管を目指して林道から降りるのがよい。

坑口はここから上流部で見つけた。この沢、及び平坦な右側の鉦山施設跡らしいところで黄銅鉦、黄鉄鉦、閃亜鉛鉦の鉦石を幾つか見つけた。紫石英もあった。



前述の水道橋から少し上流の左側に、沢に接してコンクリートの壁があった。坑口を塞いだ跡と思う。この左側には、坑内からの流出水に夜ものであろう。一面茶褐色となっている石垣組の箇所がある。



更に上流に登っていく。左側に小さい分岐沢が本流に流れ込んでいる。近づいてみると、この分岐沢の少し先に、石垣製の小さいダムがある。写真の正面の草木の奥にノロが分かり易いほどに散乱していた。精錬をした跡であろう。



前述の分岐沢に進み入り、小さい石垣ダムを乗り越えて先に進むと、沢の左右に立派に閉塞された坑口跡があった。その内の1つ。地形図中の緑丸で記している。

## 採集鉱物写真

それほどのものではないので、写真は載せない。紫水晶ではなく「紫石英」採集した。紫水晶を採集できるのかも知れない。